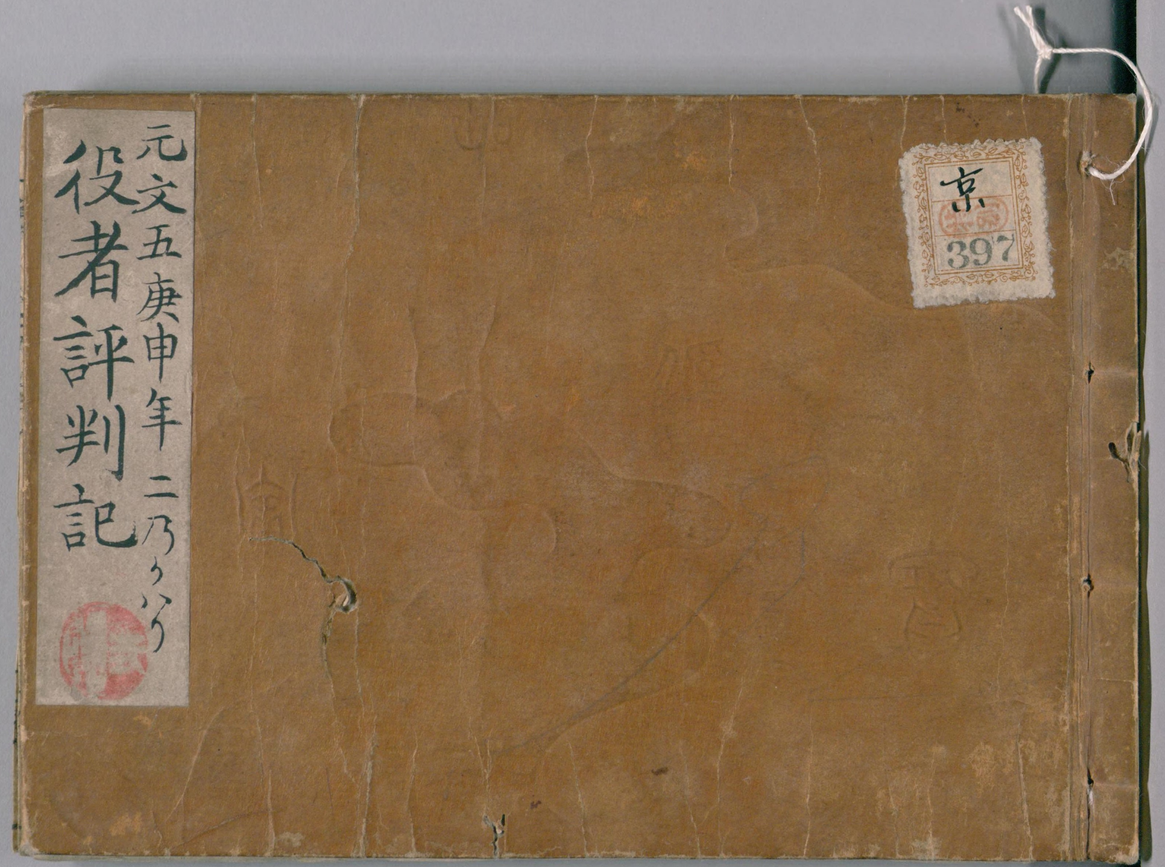


国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

京

名代 蝉子 養子養意 養命 中村善良

名代 中村若宗 養命 中村善良

▲五役之部

○見立ずもづくしたのしき

高橋之印

上吉 尤一風 大谷廣治 市松座

上吉 根生 柳山小四郎 さのや座

右藏之印

上吉 沢村竜蔵 市松座

上吉 武者取奉 小太夫

上吉 実ごとの香りのよいもの 中山新十郎 喜左座

上吉 初の香りのよいもの 深井半四郎 小太夫

上吉 いれ初めの花ものもの 吉山源七 市松座

上吉 悪くれでこざりまする 染物

京

式亭一風御懐中御油

雪月花御粉

役者似貝寓真

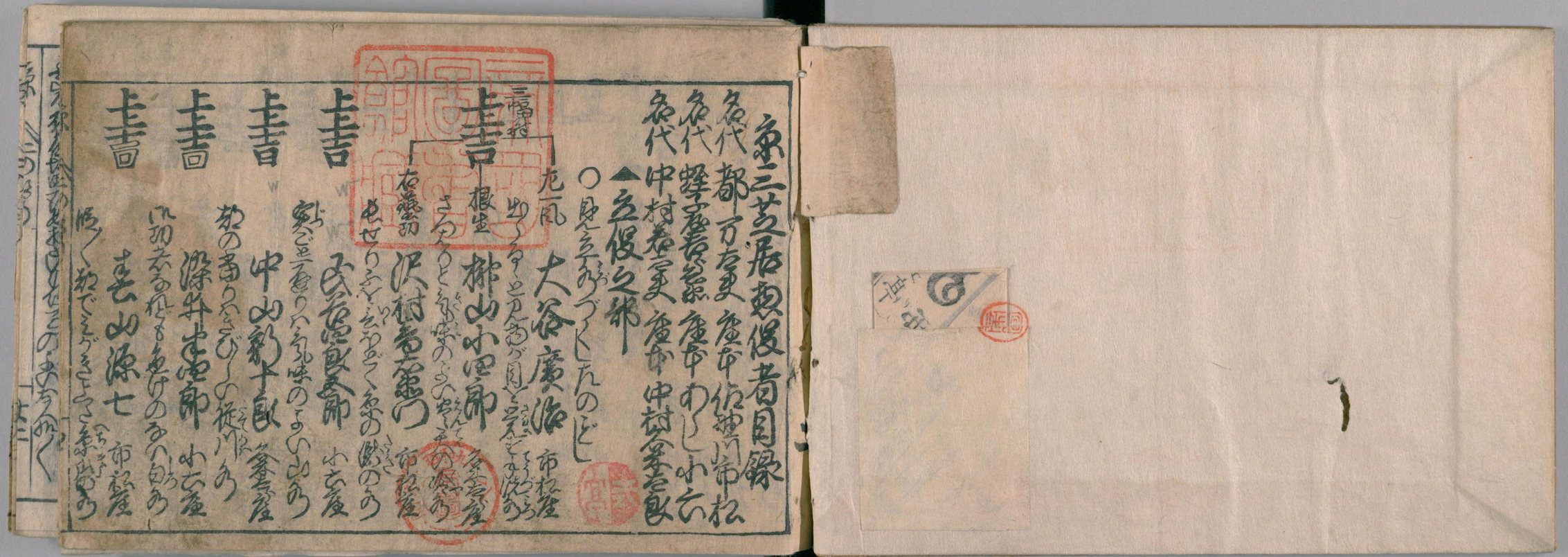
香蝶楼國貞筆

世にあるこれ一眉ものその業作異まゆもけづりさうも外の毛を交ぜ悪のそのみのいろ極上色 紫小袋一ふく三種よ服あり色よりいる鬼のもものつり餅なせ雁皿本とりかへあるものハ

又一種 これもまゆなきの代百

右之外はあつらへ好

江戸本町二丁目 江戸



第二芝居取役者目録

名代 都 万太夫 座中 佐野川市松
名代 坪 宇喜蔵 座中 わし尾
名代 中村 若宗 座中 中村笑三郎

▲立役之部

○見立ておつづくしたのごとし

上上吉 大谷広治 市松座
上吉 根生 嵐山小四郎 名古屋
上吉 右衛門 沢村竜蔵 市松座
上上吉 尾上竜助 小太夫
上上吉 中山新十郎 笹屋
上上吉 深井半兵衛 小太夫
上上吉 嵐山源七 市松座

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

上上吉　成谷十三郎　小六屋
　　義心決定の滴満る桜狩
上上吉　深松七三郎　条之屋
　　女中のとき三絃の調のみ
上上吉　坂東勘三郎　市松屋
　　おしことばにて咄すものまねの妙
上上吉　嵐　三五郎　日屋
　　いろ〳〵のくるわ言葉のうつりかわり
上上吉　二枡大五郎　小六屋
　　義のあつい和らぎひろがも勇み
上上吉　相撲若葉大郎　日屋
　　ばかものもとご相の若九ぐるみ
上上吉　生瀬浦之丞　条之屋
　　沢村改之助　市松屋
　　小佐川平義　小六屋

▲実事之部

二段目　小六屋
　　仮義ばかりの存よって孤り
八幡藪五郎　日屋
　　男のいさぎよいところとの芸

上上吉　篠塚和生郎　市松屋
　　よくの実の男ぶりにて女も渇み
上上吉　福会平九郎　条之屋
　　世話ごとの男まめ助でうまい味
上上吉　山中平十郎　市松屋
　　一味の妙でも白井うめこの芸み

▲敵役之部

上上吉　松本平十郎　市松屋
　　一世の悪の権現ひかけて大当り
上上吉　市川権蔵　条之屋
　　仕組のよろめきぶりは流石
上上吉　市村竹之助　小六屋
　　悪のかぎりをつくしてうまい芸
上上吉　市川仙之助　条之屋
　　若川平義　日屋
上上吉　相生平十郎　小六屋
　　嵐　秀之助　市松屋
上上吉　嶋見小弥太　小六屋
　　大谷友三郎　市松屋

上上吉　板中筆蔵　条之屋　上　市山筆蔵　市松屋

上上 ▲道和歌之部 景山亭 市松座
上上 西國名八 奏者座
上上 ▲花車歌之部 尾上源次 市松座
上上 花澤治之丞 小六座
上上 玉川沢之丞 奏者座
上上 ▲若女歌之部 松浦玄志郎 奏者座
上上 芳沢五壽 小六座
上上 尾上一男之助 口座
上上 ▲道和歌之部 景山亭 市松座
上上 西國名八 奏者座
上上 ▲花車歌之部 尾上源次 市松座
上上 花澤治之丞 小六座
上上 玉川沢之丞 奏者座
上上 ▲若女歌之部 松浦玄志郎 奏者座
上上 芳沢五壽 小六座
上上 尾上一男之助 口座
上上 滅尾之助 口座
上上 関小伝三 奏者座
上上 花井吉弥 小六座
上上 水木辰之助 奏者座
上上 篠塚若八 市松座
上上 中村荘三良 口座
上上 荻田大次良 小六座
上上 瀬川菊之助 奏者座
上上 中村久米之良 座元
上上 萩野十代乃 奏者座

上上 岩井喜世之助 条吉座
第一に太夫花車 粉(?)さくら 揃より
上上 嵐喜三太 同座
上 吉田友五郎 同座
上 嵐辰三郎 同座
上 山沢吉十郎 小六座
上 大和川万菊 条吉座
上 花川市之丞 市松座

▲若衆形之部

上上 染川九源太 条吉座
それ女子の分 数々(?)せ三月(?)略之
上上 西川こやこ 市松座
上 中村松之丞 同座

若女形
若衆形
巻軸 佐野川市松 座本
ちいさうてより後人の悦び耳新のの

巻軸
極上吉 嵐三右衛門 条吉座
何とぞ三の替りがくぶさいへ出よの

敵方太夫
三の替り けいせい山崎通(やまざきかよひ) 市松座
二月十七日より仕初 此評判見物多く 以上

楊真(?)は花浪の東山桜
世の中に絶て桜のなかりせばと云へども つ
ひけ(?)に先は花のあいだに桜と花と咲(?)首尾
まづ〳〵と濱(?)傳のとし春の月(?)楼(?)今(?)代(?)
姿(?)〳〵に勤(?)座今七まで中京の若代の大当
西(?)條(?)へ足(?)とまり(?)むけ(?)と流(?)東(?)山(?)へ…
月(?)の桜(?)座(?)の今(?)…と連て今(?)…(?)
ろまで若(?)の…(?)まりて…(?)
とまりまで(?)破の道る…(?)居る座
あの方よりの被の安中…(?)
つくさる…(?)の中女…(?)
お数(?)…(?)
宿根(?)…(?)
先(?)…(?)
ら…(?)

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

上吉 ㊥ 民谷十三郎 市松屋

上吉 壽 澤松七三郎 大坂屋

上吉 ㊥ 坂東彦三郎 市松屋

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

上上 ㊙ 嵐 二保の郎 京都座

(のんく) 兎角に都の女芸尽くしの中へ入りまじりて、なかなか引けをとらぬ働き、そもまた男伊達の後見役、頼もしき申しぶん。

上 ㊙ 二枡大之助 小芝座

(ひなの) ひなの女の権現参詣、ちらと見初めしのつづきにて、客方のめぐりの伴しみのら仮名書きの文、あまりのことに驚きもつづきる市は、後朝の使いの文、取りて読めばいろはにほへとちりぬるを、わかよたれそつねならむ、うゐのおくやまけふこえて、あさきゆめみしゑひもせすと、書きなぐりたる筆の跡、見るに及ばぬ夜の部

上 ㊗ 生嶋屋の部 傘二の舞の役

上 ㊗ 沢村改之助 嵐小八郎の役

上 ㊙ 小佐川平蔵 小芝座の役

実盛之部

上吉 ㊙ 二保木仮九郎 小芝座

上吉 ㊗ 八嶋幸右衛門 同座

(特もの) 今宵実盛の幽霊出ずして仕舞いは残念でござりましょうけれども、実盛の幽霊出ずとも、この役者の実盛、見ずに帰るは残念でござりましょう。

(金毛九尾) 先客の一風変わった義に感じ入りまして、里のつかひは、本舎放つの番附あらまして、実盛公気ぬきどびっくりやへうまいます。

八嶋幸右衛門 この役者の初めて仕の中ぐらいの役者、芸もまだ未熟ながらそこそこ、どうやら女形は上達致し、立役は下手、実盛は、中の上、実盛の子の小次郎は、上の下、実盛の女房は、中の下、あまり評判よろしからず。

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

上士 一 市村傳九郎 小石屋

上上 市川松之助 条 二の役 男女ともに下の二種

上上 荒川平蔵 ㊐ ㊐ 二この二の役

上上 相馬孫三郎 小石 ㊐ 二この二の役

上上 ㊐ 嵐秀五郎 裏 ㊐ 中ぐらゐの役

上一 成見小弥太 出 ㊐ 名主格の二役

上十 大谷友三郎 裏 ㊐ 中ぐらゐの役

上上 ㊐ 松葉屋喜八 条 ㊐ まちがゐの八役

上上 市川猿之助 裏 ㊐ 役にござゐの役

上上 ▲道外形之部

上上 ㊐ 吾国屋定吉郎 市茶屋

上上 ㊐ 西岡弥八 条茶屋

上上 ㊐ 林屋権助 小石 二この役 おばや茶屋の役

上上 ㊐ 大和屋七 条 ㊐ 役にござゐの役

上上 ▲花車形之部

上上 尾上源次 市茶屋

上上 ㊐ 若葉屋与兵衛 小石茶屋

上上 ㊐ 玉川屋忠 条茶屋

上上 ▲若女形之部

上上 ㊐ 松葉屋喜八郎 条茶屋

上上 芳沢玉吉 小石 ㊐ 芳沢の名前を取り松葉屋の名前を取り二この役

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

上書 ㊐ 嵐 小六 座本

上書 ㊐ 尾上菊五郎 門弟

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

[illegible]

上上吉

[illegible]

[illegible] 之丞 市村座

上上

嵐 小伝三 [illegible]座

花井吉弥 小天座

[illegible]

[illegible]

上上吉

[illegible] 之助 [illegible]座

[illegible]

上上

篠塚 [illegible] 八 市村座

中村 [illegible] 三郎 [illegible]座

[illegible]

上

藤田 [illegible] 郎 小天座

瀧川 [illegible] 之助 [illegible]座

[illegible]

上上

中村 [illegible] 座本

上上

[illegible] 十代刀 [illegible]座

上上　岩井喜之助　[illegible]座

上上　嵐喜代三郎　同座

（若女方）同座二而[illegible]役[illegible]

[illegible]の役いづれもでけました

上上　（福）[illegible]　[illegible]　二の替　けいせいの[illegible]役

上上　（米）嵐鹿三郎　同　妹おむめの役

上　摩山[illegible]　同　[illegible]姫の役

上　（市）大和山[illegible]　同　けいせいやさ[illegible]役

上　（米）[illegible]市之丞　同　金太夫の役

▲若衆形之部

上上　深川左源太　[illegible]座

上上　玉川こやこ　[illegible]座

上上　中村松之丞　同座

（若衆形）[illegible]役[illegible]役でけました

若女形若衆形兼帯　（同）佐野川市松　座本

（若衆）二の替[illegible]

上吉　（小）嵐三右衛門　[illegible]座

[illegible]

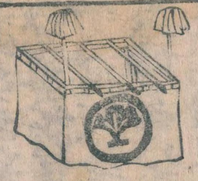
▲山本通　[illegible]

[illegible]

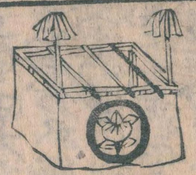
国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

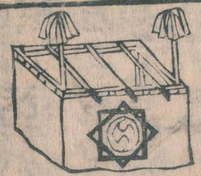
役者一番鑑 上之巻



いてうや勘彌の
代替狂言



ゆう男の若衆へ
色事の所作事



遠国より三ツ巴へ
流れ者の所作事

役者評判記 上之巻

芝居数役者目録

中村勘三郎座
市村羽左衛門座
河原崎権之助座

こびき町
ふきや町

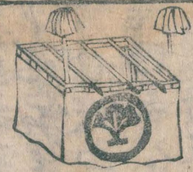
▲立役之部

○見立ひづくしたのじ

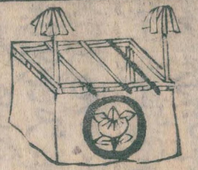
極上吉　市川海老蔵　市村座
極上吉　沢村宗十郎　中村座
上上吉　坂東彦三郎　市村座
上上吉　山本京四郎　中村座
上吉　市川團蔵　市村座
上吉　中村七三郎　中村座
上吉　荻野伊三郎　河原崎座

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

役者一番鑑　紀之巻



いとう勢源次の
代替評判記



ゆう男の若松へ
名妻の色評判記

遠国より三ツ巴へ
流行風俗評判記

紀之国芝居役者見録

さうの町　中村芝翫　市村羽左衛門
ふきや町　市村家橘
こびき町　川村路之助

▲立役之部

○見立ひづくしたのじ

極上吉　市川海老蔵　市村座
極上吉　沢村宗十郎　中村座
上上吉　坂東彦三郎　市村座
上上吉　山本京四郎　中村座

よこがおの評判ゆへすき写

上上吉　市川團蔵　同座

年功役ゆへ楽屋の座頭

上上吉　中村七三郎　同座

役者の名代目なるゆへ楽屋の頭

上上吉　嵐雛助　同座

勇でやさべ顔なれのわき屋敷

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

上上上上 市川團十郎 市村座
上上上上 坂田藤十郎 川原崎座
上上上上 三條勘左衛門 日生
上上上上 澤村源之助 川原崎座
上上上上 山中平九郎 市村座
上上上上 市川團三郎 中村座
上上上上 市川海老藏 市村座
上上上上 生福大善 日生

▲実悪之部

上上上上 市川家三郎 川原崎座
上上上上 松本幸四郎 市村座
上上上上 中澤甫庵 日生

上上上上 澤村源之助 川原崎座
上上上上 市川團四郎 川原崎座
上上上上 澤村源左衛門 中村座
上上上上 澤村源之助 日生
上上上上 澤村源次郎 中村座
上上上上 澤村源之助 日生
上上上上 澤村源之助 中村座
上上上上 澤村源之助 中村座
上上上上 市川團十郎 川原崎座

▲敵役之部

上上上上 大谷鬼次郎 中村座
上上上上 中澤甫庵 日生
上上上上 坂東三津五郎 市村座
上上上上 中村勘三郎 中村座
上上上上 市川團十郎 市村座
上上上上 中村芝翫 川原崎座
上上上上 澤村源之助 中村座
上上上上 澤村源次郎 中村座
上上上上 大谷友右衛門 日生
上上上上 澤村源之助 中村座

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

上上 中村座 ▲道外形之部 霧降南水
上上吉 おつぬけうなぎひょうたん出る魔所 嵐 富八 中村座
上上 それのみそくみのつ旬剃所 市川団蔵
上上 金之丁油 中村 上 中村座 釈迦仁分 勝山又之助 市村座
上上 ▲義軍形之部 沢村源次郎 中村座
上上吉 玉川左衛門 市村座
上上 指おかわ助 川団蔵
上上 ▲若女形之部 富澤川左助 市村座
上上吉 男ぶりのよさでも勘弁よい筈所
上上吉 男盛 沢川菊沢助 中村座
上上 兄のきくえと一緒の縁から 嵐 辰巳 久菊 同座
上上 よくもくと一同よろしく出来た処所

上上 中村座 ▲道外形之部 坂東彦三郎 川団蔵
上上吉 あつかいとあるつてくる所 神崎菊右衛門 同座
上上 歌一さいぜうでも才一の賢所 山本京次郎 同座
上上 いきほひのつく処所 澤村田之助 同座
上上 契又仕出しとと作ふる鍋の所 濱尾和市 同座
上上吉 嵐 富之助 中村座
上上 作兵衛川出の所 嵐 璃寛 同座
上上 ▲若衆形之部 坂東三津五郎 市村座
上上 ある曲の拍子のきつさこあの大所 沢村長十郎 同座
上上 ▲若衆形之部 坂東彦三郎 川団蔵
上上吉 玉沢七沢助 市村座
上上 形どおりなるづくりの総の悪所 濱中重の丞 中村座
上上 市川彩十郎 川団蔵
上上 要書役義 市村座
上上 村上常之良 同座

上
上上
上上吉

中子役 嵐源三郎 中村座
子役 市川久米蔵 川原崎座
子役 沢村松之助 中村座
松本七蔵 市村座
中村勝十郎 若女方 思しい入れ深りける目敷付て面頭
市村満蔵 若女方 見うけうつらくさうな顔頭
若衆二ノ口
中村勘三郎 立役 座本の但向請るまゝの月頭
上上 あを巻油 大上吉
川原崎権之助 立役 座本の也上下頭巾頭
市村竹之丞 立役 色風の女中のかゝる顔頭

表狂言 式評判よくあり二
豊加藤曾我 二番續
川原崎座 二月八日の仕初

此女よりんざ気も蔵方の繰
書湯の舞台にてあそびざるとあれば我
妻とその床をあげて蝦丸が紅ゐ
上郎へ初様通と思ふ人は形尊き蔵
恋婦茶庭のせはに構に様む殺も
ちどめどとる手まへの身をかくや
表向うと見物の出大に縁断に満れ
乎三月中旬よ町此継衣まそかりり
様ひおぎのさま衣けよりめ一座丸の立者
動身に衆合宣やまず花うつの子法師
こう動うわうとうひ苦に蓮縁と出
の古座下男を運入ておれあかでい
まふ仲の気に来初まかうて今のさまれ
紙溜想と上にお滝さるやうに見出
出て時ぞり反衣枚角あれとまれば縁しう

極上吉回 市川海老蔵 市村羽左衛門

おゝ役者の大当おめでたき芝居なれバ
其名を聞てすでに大入の吉相
そも〳〵此度両座ぞろひめつきの狂言
なれバ見物ハ申に及ず
役者の顔見世ハ
いつもの事ながら
さる仕打ハ
なけれ共
たのもしくハ
ありながら
狂言ハ
見ぬ
ものから

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

座でいろいろの芸のかずかずをつくし上手ぶりでお
まへるぞ [illegible]

上上吉 市川團十郎 市村座

[illegible]

上上吉 坂田藤十郎 山村座

上上吉 三條勘太郎 同座

[illegible]

上上吉 早川伝五郎 中村座

[illegible]

上上 沢村淀五郎 山村座

上上 山中平九郎 市村座

上上 市川團三郎 中村座

上上 市川弁之助 市村座

上上 生嶋大吉 同座

[illegible]

▲実悪之部

上上吉 市川宗三郎 山村座

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

永代盃
太夫元
市村宇左衛門
大でけ
市川団十郎
市川海老蔵
大わろう
市村宇左衛門

大でけ
市川団十郎
大でけ
大わろう
大でけ
市村宇左衛門

上上 仙 中村勘三郎 中村座

上上 回 市川團十郎 市村座

上上 ※ 中村座平十郎 中村座

上上 三 片岡仁左衛門 中村座

上上 回 実川延若 市村座

上上 二 村山源吾 市村座

上上 大谷廣右衛門 市村座

上上 十 沢村宗之助 中村座

上上 の 澤村源之助 市村座

上上 ◇ 松本幸四郎 市村座

上上 荻田[illegible] 河原崎座
小[illegible]五郎 同座

[illegible]

▲道外形之助

上吉
大 鶴屋南北 市村座
小 嵐[illegible]八 中村座

[illegible]

上上吉
正 市川[illegible] 河原崎座
▲二 金子万[illegible] 中村座
家 小[illegible] 市村座

[illegible]

上上吉
[illegible] 市村座

[illegible]

▲花[illegible]形之助
上上吉 い 沢村[illegible]郎 中村座
上上 玉川[illegible] 市村座
上 [illegible]大次郎 河原崎座

[illegible]

▲若女形之部

上吉 富沢門太郎 市村座

[illegible]

上吉 辰岡久菊 中村座

[illegible]

上吉 瀬川菊次郎 中村座

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397

ガラス使用

上上 ㊗ 嵐 留之助 座元

上 同 佐野川市松 改 名

上上 ㊗ 瀬川菊之丞 座元

上上 ㊗ 坂東三津五郎 座元

上上 ㊗ 市川海老蔵 改 名

上上 ㊗ 沢村宗十郎 座元

上上 ㊗ 中村芝翫 座元

上上 ㊗ 嵐 小六 座元

上上 ㊗ 中村勘三郎 座元

上上 ㊗ 市川団十郎 座元

上上 ㊗ 嵐 雛助 座元

上上 ㊗ 市川門之助 座元

上上 ㊗ 中村福助 座元

上上 ㊗ 中村歌右衛門 座元

上上 ㊗ 尾上菊五郎 座元

上上 ㊗ 市川団十郎 座元

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

大当の位 当春興行初日より千秋楽迄大入続き大繁昌

上上上 ㊀ 吾妻藤蔵 市村座 ㊁ 村上雪之丞 ㊂ みだう吉兵衛

上上 ㊀ 嵐漣三郎 ㊁ 嵐雛蔵 ㊂ 嵐雛之助

上 回 市川久米蔵 ㊁ 和泉屋弥兵衛

上上之夜 ㊀ 沢村松之助 中村座

上之夜 ㊀ 松本七蔵 市村座

大当の位 当春興行初日より千秋楽迄大入続き大繁昌

上上 ㊀ 中村勘平 ㊁ 市村滝蔵 ㊂ 市村座

上上 ㊀ 中村座三郎 ㊁ 市村座三郎 ㊂ 市村座

大当の位 当春興行初日より千秋楽迄大入続き大繁昌

上上 ㊀ 川東湊左之助 ㊁ 市村座三郎

大当の位 当春興行初日より千秋楽迄大入続き大繁昌

▲掛川藩在二月興行之義ハ完場勘定

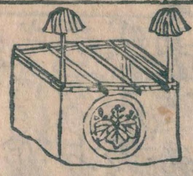
国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

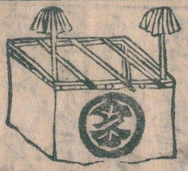
国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

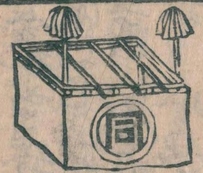
役者一番揃 大坂之巻



結も芳沢のあやめ
相生町の茶屋娘



西とあのまま伊村の娘
いそうとまでひき込む紋羽織



そう役のうら花地めく
紋付の局と話す芸者

大坂之芸者役者見録

芸者 芳沢あやめ 座本 中村十蔵
芸者 大坂屋花鳥 芸者 佐野川花妻

▲立役之部

○見立揃つくしたのと

上上吉 一流 姉川新四郎 芸者 あやめ 座本 中村十蔵
芸者 大坂屋花鳥 芸者 瀬川菊之丞 芸者 嵐小六
芸者 瀬川路考 芸者 岩井半四郎 芸者 佐野川花妻

上吉 切実 市川団之助 芸者 瀬川菊之丞
仇役でも憎くからぬ 仇役でも憎くからぬ 中村歌右衛門

上吉 実事一番うまいもの 中村重蔵 座本 中村十蔵
ひき 嵐三十郎 芸者 佐野川花妻 芸者 瀬川菊之丞

上吉 位の高い 都路良吉 芸者 あやめ 芸者 瀬川菊之丞
ふしぎの仇役合の月 中村歌右衛門

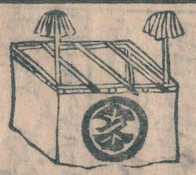
上吉 こうろ 中村歌右衛門 芸者 瀬川菊之丞
親仁形 中村福助 芸者 瀬川菊之丞

上吉 今が立役のさかりの花揃 芸者 瀬川菊之丞
芸者 大坂屋花鳥 芸者 瀬川菊之丞

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

役者一番揃 奉行

結城芳沢の勇み
相撲取りの姿絵



西とやの侍姿
いそうろうびき絵組

うろ
うろの役者
絵の見立

大坂二芝居惣役者目録

奉行松本名奴
奉行嵐芳沢やめ
奉行大坂芝居
奉行中村十蔵
奉行佐野川花妻

▲当役之部

○是当狂言作者

上書

一流 姉川新四郎 初代
芸の大当り数知れず 惣座元 座本
加判 市山助五郎 芸妙
仮役でも芸に秘伝あり 虎屋横町

上書

勇み 中村重蔵 座本
実名一番目うりこむ 虎屋横町
ひいき筋 三升連中 座本
佐野川の流れくわるる 惣座元 座本
縁もの仮名文字 都座 惣座元
親仁風 中村芝翫 十蔵座
今が当役のさかりの花揃 芸妙 大当

上書

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

上上吉 岩井志摩之助 東西屋
上上吉 中村宗十郎 江戸屋
上上吉 桜山源之丞 東西屋
上上吉 山下久吉郎 十両屋
上上吉 俵井半次郎 江戸屋
上上吉 大和屋喜兵衛 十両屋
上上吉 竹中岩吉 東西屋
上上吉 小野川平助 江戸屋
▲実取之部
上上吉 荻川平九郎 十両屋
上上吉 嵐七三郎 東西屋

上上吉 荻川半三郎 東西屋
上上吉 市山傳六郎 江戸屋
▲欲取之部
上上吉 荻川文蔵 十両屋
上上吉 大谷賀八 江戸屋
上上吉 中村沢三 江戸屋
上上吉 山下小平次 江戸屋
上上吉 沢村宗之助 東西屋
上上吉 荻川文蔵 十両屋
▲道外取之部
上上吉 市川権十郎 江戸屋
上上吉 松浦義平次 江戸屋

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

上上　大雲百卿　義勇屋
上上　風雲の三番一上　金子春六十義
▲義軍歌之部
上上　中村仙十良　十義屋
上上　吸田文十郎　あめや
上上　泉翠三良　義勇屋
▲若女歌之部
大上吉　瀬川菊之丞　あめや
上上　仮桜くとき織ノ下ぬい布引桜
極上吉　佐野川万菊　十義屋
上上　けふの淡雪かげしい俄美桜
杜吉　芳沢あやめ　座中
今世　座中の働廻り七変の癖ぐせ宝桜
上吉　め下金作　義勇屋
癖ぐせ有の〳〵色まい義経桜
義井義松　月座
仇討ちかたき討ちの義経桜
上吉　中村芝十郎　月座
ひさうまつ二番目の曽我物語桜
三傑英雄記　義勇屋
九郎ぎつねそくとなのそうむしや鞘桜
上吉　坂東彦三郎　十義屋
あらまつりふぢごろも浅間桜
佐野川花妻　座中
ねこやまのうねめ墨染桜
上吉　生嶋柏木　あめや
ちよいは俄ばしり仇討桜
芳沢崑之助　十義屋
よしの屋くらべつづらごろも桜
上吉　市村玉柏　義勇屋
風俗おどり雪のあるお松桜
上上　小野川藤蔵　一上　松修羅浅間噺
上上　若風万吉良　一上　岩間武松あめや
▲義民歌之部
上上　市村二代松　十義屋
上上　芳沢あやめ　あめや
上上　め下実源右衛門　一上　市の川菊沢良蔵

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

生玉の万せい万歳楽さへの人立合寺と
そうじ内は宮腰と仰あづくし南無妙法蓮華経ゐ
芝居好の打るさは打あるとも我身のゆう
おしく東門へ出し和安法寺と申すの
島右るさ桜へ法界の路念仏流れひそし
くがつきあしは法の見物の群集せるまかさ
役者る所桜の下に床机おならべ札の
立ッさるわりいつさあは前れ打手の株ふ割の
札をも買ふ内ゑ寄乃見物かれ有て俗く今日
は所ぶおもひて三芝居の役者衆判はは座
の義くおこしと見物人と和くおるる箱
暫見は役のおおぶ二の替の狂言へぬ雨見物
今るは家ひてはと書さえと俗るる筆店ふ
立寄て立せる俗衛と此ら居もろや衆判の加え
舟場の東ちあ番も出て出や七乃今は寺子

▲立役之部

上上吉 一流 巧妙 きめうく

姉川新四郎 大坂者

市山助五郎 京者

此度今まて居かゝ去年よりは又子の外合せて
中さるれ能姉川ハ此方ぞ大当りにて源氏ふ
此の本年ハ極楽の下の坂田の方の顔ぶれ中の
ラくまる内待ちてもあ年に出大鼓の役の役者
ての姫の夏の鬼も役の前の役の今にふ
大事せもうもと扱抜は身中の物の俗座にて
立今夜めおめの上連三段立ちいつは海の見物
のみ後て成ふさ物恋のゐもあるやと聞も
取し実は吉座の子るやと見ておゐ台へ
まとの出る夜の言ニ有ハ役へ極かしく
市山九国七尾舟乗ハ事を聞めのこゝろ放
生玉の手に彼の居へ名もそれ表いう気もづく

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号　京-397

ガラス使用

上吉わらい　中村座　芝居
上吉ひさご　嵐　三十郎　十三番目

もしもし一ツおやりさいと中村座へ参りまして三郎兵衛の時分の役者ぶりを見ますと伊賀へ入かわりましてもはや十三年目ぢやによつて成程上手になりました。殊に二番目狂言の仇討の場ではよつぽどの事でござりまする。扨又三十郎殿は当年の春より大当りをとつて居らるゝ。其上に御器量よし。芸は申に及ばず。誠に女子供の贔屓を請る事。

上吉　中村勘三郎　十三番目

勘三郎殿の花車形を見ますと。年齢四十有余の男ぶりにて。其上立ふるまひ。物まね。芸尽し。誠に女子供の贔屓を請る事。

極上吉　中村七三郎　十三番目

七三郎殿の姿は。今の若女形の中にては。第一の美人。其上芸の上手なる事。誠に女子供の贔屓を請る事。

稽古者評判記

正月二日より仕出し

源氏 東都 勇会

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

〔右丁〕

（同じく）娘形とみえてのおさへ敷かんせより役者まして
ておもしろき物でござる所作の姫の姫いそうの
おのおのの役者様御前の二三と紙の御師匠さま
鉄をせ三ちの姫のかん気芸上手のお芸は一寸
ぶの蔭合の品数の品よ引ておひ給へしてて
濡事の中にも不残のもの数後藤の一番也
合んといふ者さる活仕形は揚屋にて仕打
お所を合いてより芝居をもてと立（役）敵ものお藤の
又百文の合わせと仕て大きな手の所作（紅）の
まれな手柄かなさ紀を揚ぞ手掛せ手所付
梅が手の物まね一番が手の所作の役者人と命
身代様の品ある人の段り人、傘代とそ
芸者もおかせて頭は鬼中と出際と弁ひ
まつとふひ仕て門出るとおいて来らつ
あり娘形かけ代に役のぶの一番と新より前の所へ

〔左丁〕

切かんの所作と弁は上手より芝居の
時の刀の遣ひ女形事の始りと出る所
実事の所はお掛川殿ものかんは切に
渡りにふんそそ上あはのやる所の此様

上上吉

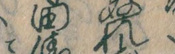
荻野大吉　荻野座
山下京右衛門　わかな座
中村宗十郎　同座

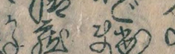
（ろうあのいろく）荻野は代々男立一寸の仕立と出入
中座より引合に一日替り狂言の品
とお出し所は立下り芸子にて國の
あお物をお上手さ兵衛なども手のる事
けいこ事ものは芝居の位も手
の事を付に付おさる事の此の狂言の様
ものさのかを仕て大事の一の宝や
のて此七の物やがの世中のお品の前の

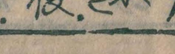
国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号　京-397

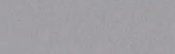
ガラス使用

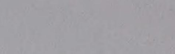
上書

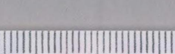


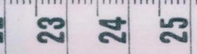


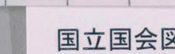


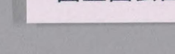


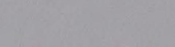












国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

ガラス使用

上上吉 卍 大和の春吉野 十総角

上上吉 竹沖名右衛門

大和の春吉野の桜さかりの頃ちらりちらりと咲ちる花の風情、あるのうらやまの松とおぼえたのもの、松竹沖名右衛門の名ぶりもよく、姫ちゃんとひそひそ咄のかやま相やまの袖の振り方、何をこれ見よがしの花見笠、其の後の首尾は月夜のせまうさ

▲実意之部

上吉 青世 四 若木平九郎 十総角

実体 実意忘らずして来ります春の月、いつ成共でもの傍へ参り度存ます。

大吉 七文字 おもの屋

嵐 七文字 おもの屋

実意忘らずして来ります春の月、いつ成共でもの傍へ参り度存ます。

久しぶりの対面、姫のおもうさぞ胸のおありでもあろうが、其身とほりのやつがるおりさぞ気のもめる事、お察し申ます。早お帰なさせ。

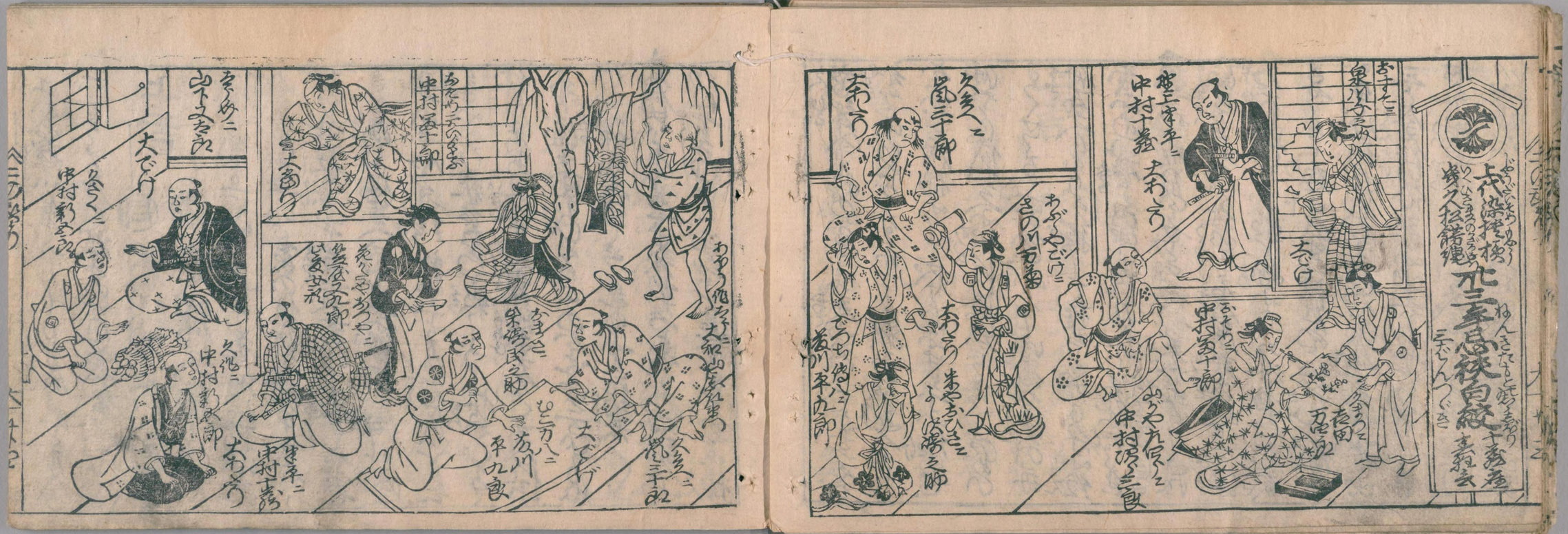
ゆやら伝兵衛さんがおもうがことわりのすくせるもなさけのしれる事の実の母何角へりくつ言て振ってお帰なさる様ならば、お姫様の御身の上より刀をおろし、死出の山の供をいたしましょうと、脇差をぬいて突かかる。

其時おくりの女中せとの次郎太分出まして、これ姫ぎみとおぼしめされて、お腹の立事ばかりでござりましょうが、ここは私の顔に免して、お帰なさるがよふござりましょう。

姫ぎみ様もそうなさりませ。爰の次第を殿様へ申上ましたら、さぞ喜ばれましょう。

うるさい貴方の口からおそれ入ますと、三人共外の方へ行ちゃりやせる。

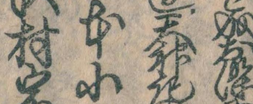
扨、次郎の申せし実意忘らずして来ります春の月、いつ成共でもの傍へ参り度存ますと、

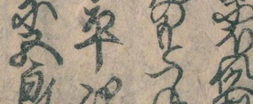


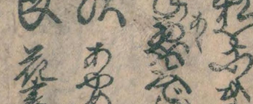
国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397

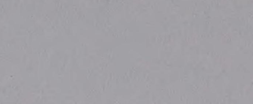
ガラス使用

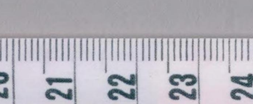
同 荻川市之丞 京都住
東 市川團之助 同住

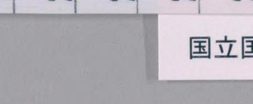












敵役之部

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

そのおんかたゞけうよく有てかぶきのこゝろをしり
ぬきの男ぶりはいふにおよばず藝ものうまく
ことばのはしばしまでもしぶりがよくてかぶきの
ふうぞくをもつともよくしりてこゝろをこゝろ
とするゆへにかぶきのやくをとればまことの
ありのまゝのすがたをあらはすゆへにこゝろ
ある人ほめずといふことなし

上上　（二）市山七郎　若女形
上上　（一）若川文蔵　十藝者
上上　（已）市川権十郎　わき方

（巻の内）二人ぜりふまはしのやくをとればいつも
文蔵丈ははやのおやまのやくをとればいつも
七郎丈はおやまのやくをとればいつも
このやくのほかはなにもせずそこがよし

▲道外形之部

上吉　（四）松浦義平次　わき方

（巻の内）ひげをはやしてかぶきのこゝろをしりたる
ことばのはしばしまでもしぶりがよくてかぶき
のふうぞくをもつともよくしりてこゝろをこゝろ
とするゆへにかぶきのやくをとればまことの
ありのまゝのすがたをあらはすゆへにこゝろ
ある人ほめずといふことなし

上上　（十）大松百助　若女形

（巻の内）ひげをはやしてのやくをとればいつも
ぜりふまはしのやくをとればいつも
このやくのほかはなにもせずそこがよし

上上　（六）嵐亀三郎　若女形
上上　（四）倉石右七　十藝者

（巻の内）ひげをはやしてかぶきのこゝろをしりたる
ことばのはしばしまでもしぶりがよくてかぶき
のふうぞくをもつともよくしりてこゝろをこゝろ
とするゆへにかぶきのやくをとればまことの
ありのまゝのすがたをあらはすゆへにこゝろ

▲若衆形之部

上上　（八）中村仙十郎　十藝者
上上　（四）坂田文十良　わき方
上上　（一）泉平三郎　若女形

（巻の内）おこそ人ぜりふまはしのやくをとればいつも
うたおどりのやくをとればいつも
このやくのほかはなにもせずそこがよし

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号　京-397
ガラス使用

一 若女形之部

大上吉 瀬川菊之丞

[illegible]

極上吉 同 佐野川万菊 十[illegible]歳

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397

ガラス使用

上上吉　中村富十郎　十蔵座

東のひく　けさ袴の日役者衆おやかた衆へ御礼ごえんぶ
仰せとうございます　わたくしどもの
ごとくの　ものまでも　ご祝儀ありがたく
存じまする　わたくしどもまで　ご祝儀
ありがたく　存じまする　ひとえに
ご贔屓ご引き立てのおかげと　ありがたく
存じまする　ご祝儀ありがたく　存じまする

上吉　二條本七右衛門　三之助　十蔵座

東のひく　七ちゃんへ　ご祝儀のまめまめしさ　感心
ものこころざしまでまで　祝ってくれる
ご贔屓のありがたさ　ご祝儀ありがたく
存じまする　ご祝儀ありがたく　存じまする

上上吉　佐野川花妻　座本

東のひく　月役二番目　ご祝儀ありがたく　存じまする
ご祝儀ありがたく　存じまする　ご祝儀
ありがたく　存じまする　ご祝儀ありがたく
存じまする　ご祝儀ありがたく　存じまする

上上　生嶋柏木　あやめ座

上上　芳沢崑之助　十蔵座

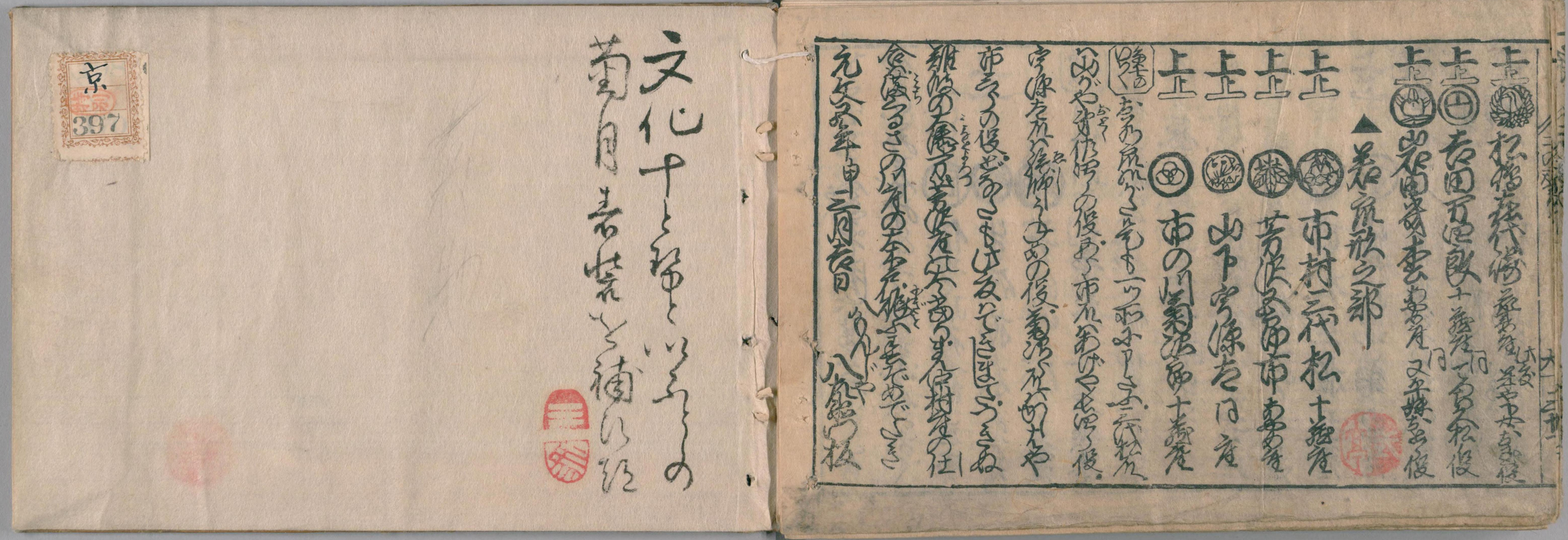
東のひく　月役二番目　ご祝儀ありがたく　存じまする
ご祝儀ありがたく　存じまする　ご祝儀
ありがたく　存じまする　ご祝儀ありがたく
存じまする　ご祝儀ありがたく　存じまする

上上　市村玉柏　若葉座

上上　小野川亀菊　あやめ座

東のひく　五ツ二番目　ご祝儀ありがたく　存じまする
ご祝儀ありがたく　存じまする　ご祝儀
ありがたく　存じまする　ご祝儀ありがたく
存じまする　ご祝儀ありがたく　存じまする

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号　京-397
ガラス使用



上上 松福森代御 新参
上上 吉田万次郎 十番役
上上 若菜数之部 ▲
上上 市村三代松 十番役
上上 芳沢あやめ 十番役
上上 山下字源左衛門 立役
上上 市の川蝦蔵 十番役

おのが所作ごとも一つ和らかし、三代松
いかがや芳沢の役あく、市丸あやめも老の役。
字源左衛門の狂師うあの役、蝦蔵花のかや
市そうの役、どのさもはなでさほどうまね
雛鶴の大藤子、芳沢あやめ宿屋の仕
合ぶるさの有の本在役、まだめでたき
元文の年申二月吉日 八島の板

文化十年酉の
菊月吉辰之補の記

京
397

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』　請求記号 京-397
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『役者評判記』 請求記号 京-397

ガラス使用